令和３年度 （2021 年度）

自己評価報告書

学校法人巨樹の会
八千代リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人巨樹の会　八千代リハビリテーション学院の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間　令和３年（2021 年）４月１日～令和４年（2022 年）３月 31 日

令和 ４年７月 21 日

学校長　　片山　薫
副学校長　　豊島　宇茂（評価実施責任者）

1. 自己評価の概要と実施状況

1）自己評価の目的、方針

① 教職員が自己評価を行い、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。

② 自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。

③ 自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。

④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2）自己評価委員会委員の構成　※令和３年度委員　９名

委員　氏名	所　属
片山　薫	八千代リハビリテーション学院　学校長
豊島　宇茂	八千代リハビリテーション学院　副学校長
野見山通済	八千代リハビリテーション学院　副学校長代行
高野　陽子	八千代リハビリテーション学院　事務長代行
吉廣　伸隆	八千代リハビリテーション学院　理学療法学科　教務部長代行
音琴　慎一	八千代リハビリテーション学院　作業療法学科　教務部長
仲村　匡平	八千代リハビリテーション学院　理学療法学科　教務主任
金平智恵美	八千代リハビリテーション学院　作業療法学科　教務副主任
前田　圭一朗	八千代リハビリテーション学院　事務部

（委員会は自己評価の実施、検討のために随時開催する）

3）自己評価方法

令和３年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己点検・自己評価の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1） 評定基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による４段階の評定基準にて実施する。

Ｓ ： 十分に達成している。　（達成度が高い）
Ａ ： 達成している。　（概ね達成しており、明らかな改善は要しない）
Ｂ ： 達成がやや不十分である。（若干の改善を要する）
Ｃ ： 達成が不十分である。　（不適合がある、明らかに改善を要する）

2） 自己評価の内容

項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像
項目Ⅱ　学校運営
項目Ⅲ　教育活動
項目Ⅳ　学修成果
項目Ⅴ　学生支援
項目Ⅵ　教育環境
項目Ⅶ　学生の受け入れ
項目Ⅷ　財務
項目Ⅸ　法令等の遵守
項目Ⅹ　社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等は、学生便覧・パンレット・Web サイト等で公表して、学生、受験生、関係者、教職員において共有できている。学則、カリキュラム、シラバスなども公開しており、Web サイトでの情報閲覧が可能となっている。

課題

教育理念・目標等を反映した、改訂カリキュラムによる教育課程の構築、運用を図る。

今後の方向性、方策など

養成施設指定規則改訂に応じた教育課程、カリキュラムへの移行３年目である 2022 年度には新カリキュラムでの卒業生の輩出を教育理念・目標の観点から確認する。

小項目　Ⅰ－1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：Ｓ
■コメント：学校案内、ホームページ等で広く公表、周知している。

小項目　Ⅰ－2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習施設など）に周知されているか。

■自己評価：Ｓ
■コメント：ホームページ、刊行物等で、広く公表、周知している。計画的な高校訪問や Web システムの活用など受験者に対する周知も拡充して、順調な学生募集となった。

小項目　Ⅰ－3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：Ｓ
■コメント：臨床実習、就職活動、教育課程編成委員会等から把握した業界のニーズに対応する教育目標や人材育成像を教育課程に反映させている。特に臨床実習を全面的に受け入れているグループ病院と密に連携して、具体的なニーズの把握と職業実践教育への反映を図っており、多くの学生が就職している。

項目Ⅱ　学校運営

総括

運営方針に沿って、適正、円滑な学校運営を行い、卒業・進級はじめ、学生の修学への支障は生じていない。2023 年度の入学定員増員に向けた準備も進めている。

課題

2023 年度入学定員増員に向けて、体制作り、環境整備など、円滑な学校運営を行うための準備、対応が求められる。

今後の方向性、方策など

リモートやオンラインを活用した学校運営体制、情報管理システムの効率的な運用などにより、学内の管理運営業務をより円滑にしていく。入学定員増に向けては、県への認可申請、校舎増築、教職員の採用、教育機器の整備などを進めて行く。

小項目　Ⅱ－1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S

■コメント：運営方針を策定して、部門会議、学内委員会・情報管理システムなどで教職員に伝達・周知し、方針に沿った業務推進であることを確認している。

小項目　Ⅱ－2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：S

■コメント：就業規則、業務分掌に則り、業務を推進。意思決定は学校運営会議、学科会議、学内委員会等で行い記録、伝達・周知を確認している。情報管理システムの導入により、意思決定から周知まで遅滞なく行われている。

小項目　Ⅱ－3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：S

■コメント：学事サーバーによる成績や情報管理により、メール等での学生への速やかな情報発信、出席確認などを行い、緊急時は学生に加えて保護者へのメール連絡も可能な体制を整備した。また、新たに導入した情報管理システムの運用により、学事運営、施設設備管理、勤怠管理業務の効率化も図られた。

項目Ⅲ　教育活動

総括

卒業資格である国家試験受験資格に見合う教育活動に努め、学修成果にも表れている。
臨床実習病院との連携を深め、コロナ禍でも実践的な臨床教育を行っている。
ディプロマポリシーに則り、更なる教育活動の向上に取り組む。

課題

養成施設指定規則改訂後の教育課程の実践について 3 年間全体を通して確認する。
授業評価結果の活用、教員個々の教育・指導力の育成を図る。

今後の方向性、方策など

令和 4 年度は昼間コース1～3学年の全学年で改訂カリキュラムによるシラバスの運用と授業運営を進める。ICT 教育、オンライン授業に関してなど、教育力向上の取組みを継続する。

小項目　Ⅲ－1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：S

■コメント：教育課程の編成・実施方針は学校運営会議で確認の上で策定している。
教育課程編成委員会での検討内容や意見も審議の上で策定している。
2022 年度の 3 年次生への新カリキュラム導入準備を行った。

小項目　Ⅲ－2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：S

■コメント：コロナウイルス感染対策を実習受諾のカマチグループ病院と連携して実施。臨地での実習を病院内のエリアや学生の状況など、個別的にも対応して、可能な限りの実践的な臨床教育機会を確保した。

小項目　Ⅲ－3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：A

■コメント：学生からの授業評価、教員間の授業評価ともに、予定通り、前期、後期のそれぞれに実施した。学内専任教員へのフィードバックも行っているが、授業運営や教育力向上に寄与している状況の確認が今後の継続課題である。

小項目　Ⅲ－4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：Ｓ

■コメント：初年次より国家試験に向けた重点科目を位置付け、最終学年次には実習での臨床思考の経験による実践的、応用的理解を深め、学内での学修指導、成果判定、対策学習を計画的、体系的に行い、成果につながっている。
今年度は臨床実習も概ね予定通りに実施でき、学内における対面講義、グループ学習、感染防止を考慮したオンラインでの学習と併せ、計画通りの学習が行なわれた。

小項目　Ⅲ－5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価：Ａ

■コメント：教育指導力を学科責任者が確認して、専門技能の教授力と併せて専任教員の資質向上を図る目的で、年２回の面談を行っている。
研修の受講、研究、学会や論文の発表については、教育・専門分野ともに推奨するも、コロナ禍以前に比較して減少し、限定的であり、今後の検討課題である。

項目Ⅳ　学修成果

総括

進級・卒業、国家試験、就職・職業実践を目指す教育および修学支援を行い、理学療法学科作業療法学科ともに良好な学修ならびに就職率、国家試験合格率の成果が認められる。

課題

留年や退学は減少しているが、モチベーションの維持、能動的学習など学修方策の工夫、心理面でのサポートなど、退学者の低減へ向けて更なる取り組みを図る。

今後の方向性、方策など

学修成果が上がりにくい学生、心理面でのサポートが求められる学生などへの個別性を考慮したサポートを行っていく。

小項目　Ⅳ－1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価：Ｓ

■コメント：グループ病院への就職支援ほか、多くの求人情報の掲示、就職説明会やセミナーなどの就職活動支援を行い、開校以来 16 年 100％の就職率が続いている。

小項目　Ⅳ－2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価：Ｓ

■コメント：国家試験を考慮した授業内容や学修方策、模擬試験実施、国家試験対策学習を行い、全国平均を大きく上回る高い合格率を継続している。

小項目　Ⅳ－3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価：Ｓ

■コメント：モチベーション維持、成績や心理的要因でサポートが必要な学生への介入、保護者との連絡など、早期に速やかな対応を行うことで退学者は低減している。

小項目　Ⅳ－4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価：Ａ

■コメント：ボランティアなどの社会的活動を把握して、実行委員会への参画など学校の支援体制を継続するが、イベントの中止により活動機会はなかった。

項目Ⅴ　学生支援

総括

クラス担任による修学支援や保護者との連携を密に行い、学生相談室でも対応して欠席や退学の低減につながっている。高等学校とはキャリア・進路支援などで連携を深めている。

課題

モチベーション低下やストレス・精神的な不安を抱える学生への保護者も含めた相談や支援、効果的な介入を早期に速やかに行う。

今後の方向性、方策など

学生の修学状況に関する報告、連絡、相談を速やかに行い、学生へ関わる教職員、部門での統一した適切な対応を行う体制を明確にして継続していく。

小項目　Ⅴ－1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価：S

■コメント：就職支援により早期の内定をすすめ、16 年連続で就職率 100%を達成している。

小項目　Ⅴ－2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価：S

■コメント：担任の定期面談から、保護者や学科責任者を含めた面談も実施している。
臨床心理士による相談室、カウンセリングを月 2 回、通期に開設している。

小項目　Ⅴ－3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価：S

■コメント：連絡や面談等で連携を図り、就学や進級・卒業が懸念される場合は保護者同席で面談を行う。緊急時の保護者へのメール連絡も行っている。

小項目　Ⅴ－4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価：S

■コメント：定期的な高校訪問によりニーズを把握して指定校入試を実施。感染症対策のもと高校での進路授業やガイダンスへの協力も例年通り実施した。

小項目　Ⅴ－5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価：S

■コメント：寮などの生活面、奨学金窓口や特待生制度などの経済面も支援を行っている。
作業療法学科は教育訓練給付金制度が社会人入学者の支援になっている。

項目Ⅵ　教育環境

総括

施設、設備・機器、学校保健・学校安全、臨床教育体制、防災体制などを毎年確認、整備して、その充実を図り、2023 年度の入学定員増への対応も準備している。

課題

2023 年度入学定員増、校舎増築等による防災、危機管理体制の更新が必要。

今後の方向性、方策など

2023 年度に向けた教育環境の整備、防災・危機管理体制の整備を進める。

小項目　Ⅵ－1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価：A

■コメント：設備、教材、図書など年度毎に確認、整備している。2021 年度の OT 学科、2022 年度の PT 学科の第三者評価を通じて、2023 年度に向けた整備を行う。

小項目　Ⅵ－2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価：S

■コメント：産学連携を結ぶグループ法人の病院と検討して、コロナ対策下でも実習病院、学生や家族の状況などの個別性応じたて可能な限りの臨地実習を行えている。

小項目　Ⅵ－3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価：A

■コメント：コロナウイルス対策により、避難含む総合訓練は部分訓練に変更。感染症に関する対応も状況を確認して柔軟に行っている。

項目Ⅶ　学生の受け入れ、募集

総括

高等学校への進路・キャリア情報の提供に努めて多くの高校生の受験、入学実績がある。特に県内高校からの入学が多く、定員を満たす学生の受け入れを継続している。

課題

社会人入学者、夜間コース入学者へのより一層の情報提供を検討して行く。

今後の方向性、方策など

高等学校へは入学後の修学状況の報告など随時、的確な情報の伝達を行う。また、2023 年度の入学定員増員に向けては、高等学校の進路・キャリア支援との連携を深めていく。

小項目　Ⅶ－1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価：S

■コメント：進路室への訪問や高校でのガイダンスなど対面での機会に加えて、webサイトでの情報提供も充実させ、指定校はじめ高校推薦入試の受験者が増加している。

小項目　Ⅶ－2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価：S

■コメント：資格取得、就職状況、国家試験対策学習などの具体的内容や過年度実績なども公表し、オープンキャンパスや進学相談等で必ず説明を行っている。また、ホームページはじめ web サイトでの学校基本情報にも掲載している。

項目Ⅷ　財務

総括

2021 年度の入学も全学科・課程で定員を満たす入学者があり、財務基盤は安定している。年度および中長期の学校運営計画に従い事業を推進して会計管理を行い、法人本部の確認のもとで適正な財務運営を行っている。

課題

安定した財政基盤の維持。

今後の方向性、方策など

2023 年度の入学定員増員に際しても、財務基盤を安定させる入学者確保を継続していく。

小項目　Ⅷ－1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価：S

■コメント：定員を満たす入学者により財政基盤は安定。学校法人本部で中長期的財政予測を行い、法人ならびに各校の財政基盤の安定を確認している。
2023 年度の入学定員増員に関する、校舎建設、教育環境設備、職員採用も財政面を確認したうえで進めている。

小項目　Ⅷ－2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価：S

■コメント：年度事業計画・予算、収支計画のもとで予算執行、事業遂行、会計処理を行い、その妥当性を法人本部・学校の双方で随時確認している。2022 年度の予算・収支計画は、2023 年度の入学定員増員の費用を含めたものである。

小項目　Ⅷ－3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価：S

■コメント：財務管理に関するチェックを随時行い、法人本部での稟議承認や定期的な会計管理、外部監査を実施している。

項目Ⅸ　法令等の遵守

総括

法令等を遵守した適正な学校運営を図り、第三者評価においても認められている。
2021 年度は作業療法学科が一般社団法人日本リハビリテーション教育評価機構の第三者評価を受審、併せて世界作業療法士連盟の教育水準審査を受け、ともに認定更新をしている。

課題

理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂後の教育課程の推進を確認する。

今後の方向性、方策など

3 年課程の昼間コースは、2022 年度に養成施設指定規則改訂後の新たな教育課程による卒業生を輩出する。入学から卒業までを通した教育に関わる事項、特に 3 年次の臨床実習指導者の資格要件の確認、実習地登録などの体制を確認して充実させる。
2022 年度には、理学療法学科が第三者評価の更新年度となり、受審を予定している。

小項目　Ⅸ－1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価：S

■コメント：関係法令、理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に準じて自己点検を行い、学校関係者評価、第三者評価で確認して、適正な運営を行っている。
2021 年度は作業療法学科が第三者評価を受審して認定を更新している。

小項目　Ⅸ－2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価：S

■コメント：個人情報保護規程に則り、情報は電磁的管理のもとで適正に運用を行っており、情報の漏洩は発生していない。学生に対しても、新入生への i-pad の配布時から個人情報やインターネットに関するリテラシー教育を行いトラブル発生なく運用されている。

項目Ⅹ　社会貢献・地域貢献

総括

コロナウイルス感染防止のため、多くの社会・地域貢献の機会が中止とる状況が続いている。
オンラインで開催される講習会への協力や障害者イベントの実行委員として教員が参画するなど、可能な協力を継続して行っている。

課題

コロナウイルス感染防止の動向に応じた社会・地域貢献について、協力の方法や可否の判断を適切に行なう。

今後の方向性、方策など

社会・地域貢献に関して、再開されるイベントへの対応、およびリモートやオンラインシステムの有効活用による貢献の在り方を検討する。

小項目　Ⅹ－1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価：S

■コメント：理学療法士・作業療法士臨床実習指導者講習会は、オンラインシステムの提供と講師派遣を行い、学院を基地局会場として開催している。

小項目　Ⅹ－2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価：S

■コメント：地域の障害者イベントなどボランティアの機会は中止となったが、教員が実行委員として継続的に参画して、開催の可否や次年度の開催方策、ボランティア体制の検討などにリハビリ専門職としての提案や協力をすすめた。2022 年度も引き続き教員が実行委員として参画する予定である。

以上